

3年ぶり、日本最大級の祭り「青森ねぶた祭」本日8月2日から開催！

「漣」アンバサダー浅田真央さんが青森で「ねぶた制作」に初挑戦！

ねぶた名人の指導のもと色付けと紙貼り

“ねぶた祭の踊り手”跳人(はねと)の体験で持ち前のジャンプ力を発揮！

漣 CM をイメージしてデザインされた「漣ねぶた」が登場！

宝酒造株式会社（京都市、代表取締役社長 村田謙二）は、2022年8月2日（火）～7日（日）に3年ぶりに行われる「青森ねぶた祭」に協賛いたします。開催前には『スパークリング清酒「漣」』のアンバサダーである浅田真央さんが青森を訪れ、「ねぶた」の制作や、ねぶた祭の踊り「跳人（はねと）」に挑戦しました。なお、「漣ねぶた」は、ねぶた名人の千葉作龍さんが、「漣」のCMをイメージして制作したもので、「青森ねぶた祭」にて登場いたします。

浅田さんは、アンバサダーとして、これまでに和太鼓や盆栽など、様々な和文化に触れ、「漣」とともに和文化の魅力を発信してきました。今回は7月10日（日）に青森県を訪問し、ねぶたの歴史や魅力を学び、ねぶた制作や「跳人」に挑戦。日本を代表するお祭りを通じ、夏に合うスパークリング清酒「漣」の美味しさを体感しました。なお、この様子は、漣の公式 You Tube チャンネル「MIO×MAO チャンネル」で「ねぶた祭に挑戦編（前編、中編、後編）」として、8月2日（火）、3日（水）、4日（木）に3日連続の3部作として公開いたします。



5 代目ねぶた名人との対談で「ねぶた」の魅力を知る

浅田さんが訪れたのは、ねぶた祭の歴史や魅力を伝えている青森市文化観光交流施設「ねぶたの家 ワ・ラッセ」。ここでは、計 11 回の最高賞に輝くなどの功績を残し、歴代で 6 人しかいない「ねぶた名人」の一人である第 5 代ねぶた名人・千葉作龍（ちば・さくりゅう）さんと初対面しました。施設に展示されている大迫力のねぶたを前に「うわ～、すごく大きいですね！とても華やかです。テレビを通して見たことはありましたが、こんな近くで見るとは初めて。こんなにも大きいんだ」と圧倒された様子の浅田さん。千葉さんから丁寧にねぶたについて教えてもらおうと、大きくうなずき、「何人で作るんですか？」「制作期間はどのくらいですか？」などと興味津々で質問しました。



施設を巡った後、浅田さんは千葉さんと対談しました。千葉さんはねぶた師として活躍した 56 年間で歴代最多となる 156 台のねぶたを制作。今年 5 月に現役引退を表明し、第一線から勇退されました。千葉さんは、長きに渡るねぶた制作を「毎年新しい気持ちで作っていました」と回顧し、「ねぶたを作るのは大変。大変だからこそ、楽しんで作ろうと思っていました。つらいことは考えない。ねぶたの魅力を通り越して、ねぶたの魔力に取り憑かれているような気がします。生まれ変わっても、ねぶたを作り続けると思っていますね」とねぶたへの熱い思いを語り、浅田さんは真剣な面持ちで耳を傾けました。

千葉さんとの対談を通し、浅田さんは「私も、過去のことを忘れて常に新たな気持ちでゼロからスタートすると思って続けてきた。そして、やっぱり楽しいと思う気持ちは忘れないでいようと思いました。それはスケートにも繋がること。やっぱり自分自身が楽しまないと、お客さまにも伝わらないと思うので、千葉先生の話聞いて納得しました」と語りました。



「ねぶた制作」に初挑戦！ ねぶた名人＆弟子がレクチャー

千葉さんの最後の弟子である、若きねぶた師・吉町勇樹さんのもと、浅田さんはねぶたの色付けに初挑戦しました。色付けするのは、今夏に「青森ねぶた祭」に登場する吉町さんのデビュー作品。「ねぶたで一番映える色」という赤色を筆で塗っていくことになり、浅田さんは「緊張します…。失敗は許されないの」とドキドキ。吉町さんや千葉さんから手ほどきを受けながら、慎重かつ丁寧にねぶたに命を吹き込んでいきました。



染料が垂れることなくキレイに赤が紙にのっていくと、吉町さんは「お上手です。大成功！」とにっこりで、千葉さんも「スケートだけでなく、ねぶた制作もやったほうがいい」と浅田さんの腕前を称賛しました。浅田さんは「すごく緊張しましたが、完成するのが見えてくると楽しいですね。ねぶた祭に参加した気分になりました。参加できて、うれしいです！」と満面の笑みを浮かべました。

「濡ねぶた」で紙貼り 自身をイメージしたねぶたに感動

「青森ねぶた祭」には「濡」のボトルをかたどったオリジナルのねぶたが登場します。手掛けるのは、千葉さん。第一線を退いた千葉さんですが、今年は特別に「濡ねぶた」の制作を担当してくれました。今年の「濡ねぶた」は、「濡」のCMを見た千葉さんが、“冷えている「濡」と氷の世界で化身が舞っている”というテーマで制作されました。浅田さんは「すご〜い！まさか私の出演したCMをイメージして作っていただけるなんて、うれしい。完成が楽しみです」と大喜びでした。

ここでは、「濡ねぶた」の紙貼りに挑んだ浅田さん。骨組みに薄い和紙を糊で貼り、余分な部分をカッターで切り落とすという繊細な作業で、「色塗りよりも大変な作業かもしれません」とねぶたにぐっと顔を寄せ、真剣な表情で取り組みました。作業を見守っていた千葉さんは「難しい作業だと思うけど、上手ですよ」と色付けに続き、浅田さんの正確な手作業を褒めました。



跳人を体験 持ち前のジャンプ力に名人も絶賛

跳人（はねと）とは、ねぶたの屋台とともに練り歩く踊り手のことで、「青森ねぶた祭」には欠かせない存在です。浅田さんに踊りを教えてくれたのは、「ミスター跳人コンテスト」の初代グランプリ・野澤俊さん。野澤さんが「簡単に言うと、掛け声とともに右足で2回、左足で2回ジャンプします」とレクチャーすると、浅田さんは野澤さんの動きを見ながら動作を確認。野澤さんがジャンプについてポイントを伝授すると、「スケートのアクセルジャンプと似ています。こうですか？」とすぐさま踊りを習得。野澤さんや周囲の跳人名人から「さすが！」「うわ〜、お上手です」と飲み込みの早さとジャンプ力を絶賛されました。

「ラッセラー・ラッセラー・ラッセラッセ・ラッセラー」という掛け声も教えてもらい、音楽に乗せ披露することに。手にうちわ、腕に鈴を

着け、野澤さんたちとともに踊りました。浅田さんは「気持ちが華やかになりました。楽しかったです！いつか『青森ねぶた祭』に跳人として参加してみたいです」と声を弾ませました。



浅田真央さんコメント

Q：初めてのねぶた制作はいかがでしたか？

A：浅田真央さん

3年ぶりに「青森ねぶた祭」が開催されるということで、私も初めての体験をさせていただきました。失敗は許されなかったと思うので、とても緊張しましたね。職人のみなさんの魂が込められた作品に、私も手が加えられるということでドキドキでした。ねぶたをこんなに間近で見ることも初めてだったので驚きました。すごく迫力がありましたね。

Q：跳人体験はいかがでしたか？

A：浅田真央さん

跳人の体験も今回初めて経験させていただきました。みなさんの踊りがすごい迫力で、実際の祭は倍以上の迫力なんだろうなと思いました。機会があれば参加して踊ってみたいなと思いました。跳人の踊りにはジャンプがあったのですが、アクセルジャンプと似たような動きもあったので、スケーターとして親近感が湧きましたね。

Q：今夏、挑戦してみたいこと／楽しみにしていることありますか？

A：浅田真央さん

9月から新しいショー「BEYOND」がスタートするので、この夏はお祭りに参加できるかは分かりませんが、夏にしっかりと準備して9月からの本番に備えたいと思います。

Q：澆アンバサダーとして、日本文化や日本酒について、今回のロケを通じてどんな事を伝えていきたいですか？

A：浅田真央さん

日本酒は日本を代表するお酒。私を通じて多くの方に「澆」の素晴らしさを伝えていきたいです。「澆」は日本酒のスパークリングなので、暑くなるこれからの時期にぴったり。どんな方にも飲みやすいと思います。「MIO×MAO」チャンネルで日本の伝統文化を楽しみつつ、みなさんにもその魅力を発信していけたらと思います。